

令和6年度
自己評価報告書

令和7年7月

一般財団法人 岩手済生医会
岩手リハビリテーション学院

I 自己評価について

岩手リハビリテーション学院では『専修学校における学校評価ガイドライン』（文部科学省：平成 25 年 3 月）に基づき、学校評価実施規程を定め自己評価を行なっている。

II 自己評価委員会

委員長	遠藤 重厚	学院長
委員	細川 康紀	副学院長
委員	佐藤 浩哉	理学療法学科長
委員	岡崎 謙治	作業療法学科長
委員	峯 智	事務長

III 対象期間

令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 3 1 日

IV 各評価項目における取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切・・・ 4 ほぼ適切・・・ 3 やや不適切・・・ 2 不適切・・・ 1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2) 学校における職業教育の特色を持っているか	4
3) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
4) 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

【現状および課題】

- ・教育理念・目標・育成人材像などについてはホームページ・学生便覧への掲載を継続的に
行っている。また、学院見学説明会や入学時オリエンテーションにおいても伝えている。
- ・より具体的に教育方針を周知するため、3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュ
ラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）も策定し、ホームページ等でも公開している。
- ・社会人に求められる素養の獲得に向け、外部講師による各種セミナーを実施した。
- ・年2回就職説明会を両学科合同で行い、業界ニーズの把握に努めた。
- ・臨床教育者会議や実習地訪問を対面とWebのハイブリット形式で行い、業界ニーズの把
握に努めた。

【対策】

- ・今後も社会環境を踏まえながら、臨床実習指導者会議・実習地訪問・就職説明会等をでき
る限り対面で行い業界ニーズの把握に努めていく。

2. 学校運営

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4
4) 人事・給与に関する規程等は整備されているか	4
5) 教務・財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されてい るか	4
6) 教育活動等に関する情報公開が適切に行われているか	4
7) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【現状および課題】

- ・学校運営は学科会議・各業務会議等で協議の上、学院の意思決定機関である職員会議にて
意思決定を行っている。また、重要な案件に関しては、法人理事会に諮り承認を受けている。
- ・ホームページ管理において内容変更遅延の改善には至らなかった。原因として、学院側の
業者に対する変更依頼の遅延もあったが、業者の対応遅延（即日対応不可）もあった。
- ・学校生活・学業における情報共有や伝達システムの充実を図る目的でホームページに学生
掲示板を新設したが一部の情報発信に留まり、従来の書面掲示と併用となっていたため活
用度が低かった。

【対策】

・ホームページ管理においては、即時対応が必要なコンテンツに関してはワードプレスに変更し、業者依頼を行わず本学の方で更新していく形態にする。

・学校生活・学業における情報共有や伝達システムの充実に向け、理学療法学科は学生への情報伝達を書面掲示板の利用を廃止し、ホームページ学生掲示板のみに一本化する。

3. 教育活動

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2) 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5) 関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
8) 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準が明らかになっているか	4
9) 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	3
10) 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	4
11) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
12) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
13) 教員の能力開発のための研修会等が行われているか	3

【現状および課題】

- ・学科毎に人材育成要件（指定規則、教育ガイドライン、養成教育モデル・コア・カリキュラム等）を踏まえたカリキュラムの検討を継続的に行っている。
- ・臨床教育に関して令和6年度は両学科ともに臨床実習指導者会議をWebおよび対面のハイブリッドにて開催し、臨床実習指針等の共有を図り、臨床実習の進捗状況確認や情報交換は電話・Web対応のみの施設も一部あったが、ほとんどの実習施設に対し現地訪問を行った。
- ・業界が求める人材を把握する目的で臨床指導者（教育者）会議にてアンケート調査を行う予定ではあったが、アンケート内容の吟味に時間を要し実施できなかった。
- ・授業評価に関しては、理学療法学科・作業療法学科共に授業アンケートを実施し、授業の質の向上に役立てた。
- ・成績評価においてGPA（Grade Point Average）導入を令和7年度施行に向け検討を行った。
- ・常勤教員には実務経験を有する者を配置している。専任教員数は作業療法学科8名、理学療法学科6名となり、指定規則人数を確保した。
- ・FD会議等を行いながら学内での研鑽は図っているが、教員研修会や専門性向上に向けた研修会参加は、研修会定員数の関係や時間的制約等もあり、十分に行えたとは言えない。

【対策】

- ・授業アンケート内容の吟味や活用方法の見直しを進めていく。
- ・令和7年度は臨床指導者（教育者）会議にて業界が求める人材についてアンケート調査を行う。
- ・GPA（Grade Point Average）を令和7年度より導入する。

4. 学修成果

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 留年率の低減が図られているか	3
4) 退学率の低減が図られているか	3
5) 卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
6) 卒業後のキャリア形成への教育活動がなされているか	3

※ 第60回国家試験について

理学療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	37名	34名	91.9%（95.2%）
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	1名	1名	100%（31.2%）
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	38名	35名	92.1%（89.6%）
作業療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	26名	25名	96.2%（92.5%）
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	3名	0名	0%（37.8%）
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	29名	25名	86.2%（85.8%）

《理学療法学科》

【現状および課題】

・第60回理学療法士国家試験合格率は、91.9%と、合格率の全国平均を下回る結果に至った。大きな原因としては教員が学生の質的な低下に対策が追いつけていない点が考えられる。

【対策】

・令和7年度からは、2年次から外部業者のシステムも導入しながら、国家試験対策を始める予定である。

《作業療法学科》

1 在校生

【現状（対応）】

- 1) 国家試験に向けてのグループ作成（学生個々の希望を聴取）
 - ア) グループ学習
 - イ) 個別学習
- 2) 学生の特性を教員からアドバイス
 - 個別面談にてアドバイス
- 3) 学生グループ決定
 - ア) グループ学習チーム（基本的に毎日学院で学習）
 - イ) 個別学習チーム（1回/週、登校し内容の確認を行う）
- 4) 国家試験までのスケジュール作成
 - ア) グループ学習
 - イ) 個別学習
 - 共通

5) 業者模試の実施

二業者の模試を実施(費用は個人負担)

【課題】

不合格者はグループ学習チームの1名であった。不合格者の取組みなど本人を入れて再確認したところ、グループの流れについていけずに相談することもできずに受験に至っていた。個別の振返りの不十分さが考えられる。

国家試験対応は担任と国家試験担当と2名が主体となっている。他教員と情報共有などを含めて全学生の状況確認の不十分さ等、課題が見られる。

【対策】

- 1) 国家試験担当1名、担任1名との2名対応を主体とする。(現行通り)
- 2) 学生の個別面談報告を全教員間で行う(定期開催 1回/週)
 - a) グループチーム、b) 個別チーム
- 3) スケジュール確認の実施を全教員間で行う(定期開催 1回/週)
 - a) グループチーム、b) 個別チーム
- 4) 模擬試験結果を学生個々へフィードバック(現行通り)
医歯薬模試、三輪模試

2 既卒生

【現状(対応)】

- 1) 1回/月登校にてスケジュール作成の上、学習内容確認
 - ・遠方の卒業生もいるため、対応はメール、オンラインが中心となった。
 - ・卒業生個々のデマンドに対応
- 2) 個々人の学習に応じた課題、ウィークポイントを把握した上でのアドバイス、指導

【課題】

- 1) 既卒生に関しては3名全員が不合格という結果に終わった。
- 2) 複数回不合格の既卒生は学習時間の少なさや暗記中心の学修方法に課題がある。
- 3) 来校しての学習を推奨しているが、既卒生の主体性に委ねているため、アルバイト等の諸事情で来校数が減少し、指導の継続性が取れなかった。

【対策】

- 1) 月1回の指導の徹底。(既卒生の希望日に柔軟に対応する)
- 2) 不合格原因の究明と改善を促していく。
(学習習慣の確立。学習方法の見直し等)

※留年者・退学者状況

－留年者－

理学療法学科	145名中0名	0%
作業療法学科	104名中3名	2.8% (1年生1名、3年生2名)

－退学者－

理学療法学科	145名中3名	2.8% (1年生1名、2年生1名、3年生1名)
作業療法学科	104名中3名	2.8% (1年生1名、2年生1名、3年生1名)

《理学療法学科》

【現状および課題】

・令和6年度、学科教育方針と学生間の認識のずれからの退学者は皆無となったが、理学療法と自分の適性に悩み退学していく学生が発生している。学生のメンタル面のフォローの重要性が課題と考えている。

【対策】

・理学療法と学生の個人的な適正にギャップを感じ退学する学生は一定数いることから、精神的・心理的な面へのアプローチを強化する予定である。また、悩みを抱えている学生の早期検出と個人面談の方法について、具体的に検討していく予定である。

《作業療法学科》

(学科指導体制)

- ・担任制の配置実施
- ・学年毎、学務担当教員を配置

(留年及び退学の事由)

- (1) 学業成績不振
- (2) 学納金等、経済的な理由
- (3) 学生自身の将来像(O.T)の未熟さ

【現状】

①学生指導対応

- 外来講師 : 期末試験問題等のフィードバックは学生個人
- 専任教員 : 試験解説およびフィードバックの実施
- 担任教員 : 期末試験実施後の再試験結果については年度末進級判定会議まで学生には通知しない

②保護者等への対応

- ・前期終了時に、学生個人々々へ郵送にて前期分の試験結果は家庭に通知。

・父兄面談等、成績結果(5科目以上の再試験受験者には必須にて実施。希望過程があれば随時実施している。

・試験結果については本試験結果までの通知である。

(現状・課題)

留年に関しては1科目でも不合格の場合、進級は不可という学則規定がある。このため再試験結果が年度末までに開示されない。学生個人々人による部分はあるが、自分自身で不合格という手応えがあると、進級は出来ないと諦めてしまう者もいる。

再試験結果の取扱い、指導には課題がある。

【対策】

- ①学生への早期学習習慣の管理指導
- ②各専任教員の学生習熟状況の把握、確認。これに基づいた指導
- ③外来講師試験問題等の取扱いについて要検討(試験問題の開示、フィードバックの在り方)
- ④日常的なコミュニケーション (ほうれんそうの徹底)
- ⑤学生キャリアラダーの周知に努める(職業意識の徹底)

5. 学生支援

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4) 学生の健康管理を担う体制は整備されているか	4
5) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
7) 保護者と適切に連携しているか	3
8) 卒業生への支援体制は整備されているか	3
9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

※学生相談

《理学療法学科》

【現状および課題】

・令和6年度、大きな課題であった教員・学生間の信頼関係の回復は一定程度改善された。その結果を受け、今後は学生が一層学修に専念できるような環境作りが必要と考える。

【対策】

・学生との定期的な個人面談や希望する保護者との面談を実施していく。さらに、コロナの影響で自粛していた学生自治会の活動も活発化するよう指導していく予定である。

《作業療法学科》

【現状】

1. 学修面
 - ①学年担任制
 - ②学年毎 学務担当教員の配置
2. 相談支援
 - ①定期的な担任などによる個別面談
 - ②相談支援窓口の設置
 - ③目安箱の設置
3. 学生自治会活動
 - ①ボランティア活動の機会周知
 - ②学生希望活動支援

【課題】

1. 学生個々への面談回数等の時期、回数等 適正か否か
2. 学生自治会活動 コロナ禍の影響で停滞している部分への活性化

【対策】

1. 学修面、生活面等学科会議等で学年毎担任教員の報告の定例化およびその内容確認、検討を行う。
2. 学生自治会活動に関しては年度計画からその振返りなどに対してアドバイスを適宜行う。また学生自治会より申し出があった場合も同様に適宜実施するよう努める。

※指導体制・ハラスメント等

【現状および課題】

・教員－学生間の信頼関係構築に関しては、相談窓口の周知や授業等に関するアンケート調査などを行うことで問題点、それに対する対処を行うことで改善してきている。

【対策】

・「よろず相談窓口」の活用や教員と学生の接し方の改善、早期の個人面談の実施、希望のある保護者との面談などを継続的に実行していくことで、教員－学生間の更なる信頼関係を強化していく。

・始業式等で「よろず相談窓口」の活用について定期的に周知していく。

・定期的な授業評価アンケートおよび学校生活アンケート調査（匿名性を確保しながら）

・能動的学習を身につけてもらうための講義手法や指導方法について今後も継続して改善を図っていく。

※保護者等との連携

《理学療法学科》

【現状および課題】

・令和6年度は、必要と思われる十分な連携を図ることは出来なかった。

【対策】

・令和7年度以降は、定期的な「学科通信」の発行、希望のある保護者に対しては随時保護者面談等を行うことで、連携を強化していく予定である。

《作業療法学科》

【現状】

①学年毎の保護者説明会の実施

・1、4年次は対面開催

・2、3年次はオンライン開催

・アンケート実施にて、設定時間・時期、内容等に関しては把握

②学科通信の作成、送付

③成績表の送付

④随時面談の案内

※面談に関しては基本的な姿勢として、教員2名以上で対応

【課題】

①保護者等説明会の参加率の低下

※1、4年次は90%

※2、3年次は50%

開催時間(1時間)

保護者等タイムリーな内容としては未整備

興味を引くような内容としては要検討

②学科通信について

家庭への感想などフィードバック未実施

③成績表の送付

再試験結果等、その後の対応等について内容の検討が必要

④随時面談について

各学年1～2件程度の申し込み状況である。

面談件数が多いことが評価されることではないため回数については要検討

【対策】

①学年毎、説明会実施の継続と内容の検討

②学科通信などの発行とフィードバックの在り方

③成績表の通知と検討事項について(精査)

6. 教育環境

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制が整備されているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

【現状および課題】

・設備・備品等の老朽化も見られており、新たに5か年計画を策定し、令和6年度は南面の外壁改修・非常階段の修繕を中心に行った。

・学院内防災体制の組織化を図り、災害への対応の指導・防災訓練をするとともに災害時対応自販機の設置等学内設備の整備を行っている。

【対策】

・令和7年度は西面外壁の改修を予定していたが、1～4階全トイレの改修に計画を変更し行う。

・下肢装具等の教育備品の入れ替えを計画している。

7. 学生受け入れ

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 学生募集活動は適正に行われているか	4
2) 学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
3) 学納金は妥当なものになっているか	4

【現状および課題】

- ・学校見学説明会、学院ホームページでの情報公開、各高校への資料配布、募集要項・リーフレットの作成及び配布を行っている。
- ・テレビCMを活用し学院説明会の広報を行った。
- ・学院見学を希望する中学校・高校・個人は全て受け入れた。
- ・最低限の必要経費を目安とした学納金を設定している。
- ・理学療法学科は定員数を満たしているが、受験者数は減少しており、受験者数拡大に向けた検討を早急に行う必要がある。
- ・作業療法学科において入学志願者が低減しており、入学者確保に向けた検討を早急に行う必要がある。

【対策】

- ・入学定員確保に向け、学院パンフレットの刷新、ホームページ・募集要項改良、高校訪問の拡充、他県での相談会開催等を進めていく。
- ・業者や高校で企画している進路相談会や進路説明会は可能な限り参加し、学院見学を希望する中学校・高校・個人に対してもできる限り受け入れていく。

8. 財務

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか	3
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	4
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4
4) 財務情報公開の体制整備は出来ているか	4

【現状および課題】

- ・法人としては病院経営も行っており、コロナの影響から脱却していない。
 - ・校舎・教育器材等の老朽化が進んでおり、計画的な入替を検討していく必要がある。
- また、作業療法学科において入学志願者が低減しており、入学者確保に向けた検討を早急に行う必要がある。
- ・法人の財務情報をホームページ上に公開している。

【対策】

- ・法人は経営体制の強化として、令和7年度から経営改善対策室を設置し、病院部門の収支改善に向けた具体策の立案を行う。
- ・校舎の老朽化対策として、令和7年度はトイレ改修工事を実施し、令和8年度は校舎西面外壁改修工事を実施する予定である。
- ・入学者確保に向けた取り組みの強化として、入学試験に指定校推薦を導入、高校訪問の実施、広報媒体（HP、Instagram等）の新設とデザイン・内容変更、学院案内パンフレットおよび募集要項のデザイン・内容変更等により入学志願者の獲得を目指す。

9. 法令遵守

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2) 個人情報保護に関し、その保護のための対策が取られているか	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4) 自己評価結果を公開しているか	4

【現状および課題、対策】

- ・理学療法士・作業療法士養成施設等学校指定規則に則り運営している。
- ・個人情報保護については『個人情報の保護に関する規程』に基づき逐次説明と同意を実施し、知り得た情報については適宜保管している。
- ・自己評価及び学校関係者評価を行い、自己点検を進め、その内容についてホームページ上に公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2) 学生ボランティア活動を奨励支援しているか	4
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

【現状および課題】

- ・他団体活動に対する備品貸し出しなどを行った。
- ・各地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、一部（障がい者スポーツ大会・盛岡シティマラソンなど）のボランティア派遣を行った。
- ・業界団体を経由した講師依頼や各種委嘱に対し可能な限り対応した。
- ・地域住民の健康増進に向けた支援体制は地域包括支援センターおよび地域住民代表との間で検討し実行した。

【対策】

- ・感染性疾患の感染状況にもよるが依頼のある各種ボランティア活動には積極的に協力していく。
- ・業界団体を経由した講師依頼や各種委嘱に対する派遣を引き続き行っていく。
- ・地域包括支援センターと連携し地域の小学生に対して認知症啓発活動や地域住民に対する健康増進事業のサポートを継続して行っていく。
- ・近隣住民の健康増進に向けた取り組みを地域包括支援センターと協力しながら進めていく。